

学生一人ひとりが自主性を身につけるために

～学生総合窓口“Q&WAY課”の設置と
ICTを駆使した学生プロフィールデータベースの作成～

1. 目的

- ① Question（質問）に対する Way（道筋）を回答する課である。
- ② 全ての学生はわからないことは Q&Way 課の窓口にお問い合わせる。
- ③ 各学務担当部署からの情報を吸い上げ、1つに集約する。

→学生は Q&WAY 課の窓口ですべて解決できる。

（当課の職員が ICT を活用し、蓄積されたデータベース[仮称：「学生プロフィールデータベース」]をもとに対応する）

→単に、質問に答える「Q&A」の対応をするのではなく、学生の自主性をはぐくむために、その問題解決をするための「道筋」(WAY)を示す役割を果たすのが当課の役割である。

2. 現状

- ① 自主的に行動できない学生が多い。
- ② 大学に対する愛着が少ない（不本意入学者が多い）
- ③ 学生に情報を与えすぎて自主的に動かない悪循環
- ④ 事務組織が縦割りであり、スムーズな情報共有ができていない
- ⑤ 教職員の対応が必ずしも均一ではない

3. 課題

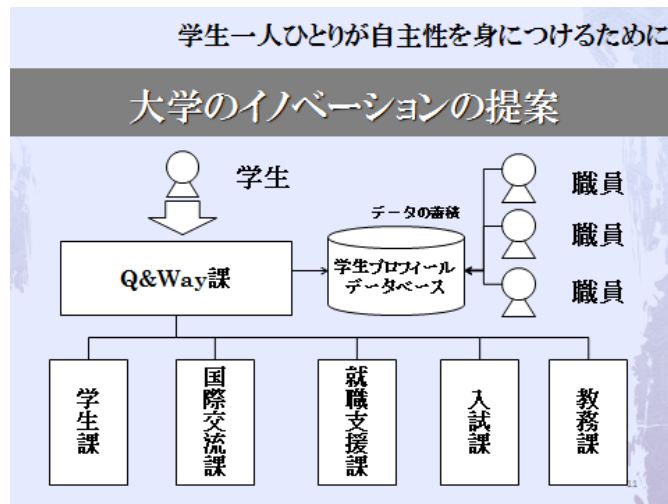
- ① 学生に考えさせるきっかけを作るには？
- ② 学生に大学が行っている活動に興味を持ってもらうには？

4. 提案

答えを教えるのではなく、解決の道筋を案内する教育的な職員が必要である。

→ICTを駆使し、各部署の情報を集約し、学生の自主性をはぐくむ対応をしていく課を設立する。

組織図は以下のとおりである。



各部署の情報を集約したQ&WAY課の職員は、対応した学生の情報を、担当部署につなぎ、学生支援をバックアップすることで、各部署の対応のフォローをする。

各部署の担当者は、日々Q&WAY課に集約し、互いの連携を図る。

5. 所感

当課設立を実現するためには、以下のような点を踏まえなければならない。

- ① 様々な部署に習熟した人材の育成
(経験豊富なベテラン職員を配置)
- ② Q&Way 課に権限の付与
- ③ 個人情報の取り扱い方法の検討
- ④ 定常的に各職員が学生情報を提供するように働きかける。

上記の点を踏まえるには、大学ごとの風土や、意思決定手順の違いにより、アプローチはさまざまである。したがって、「課の設立」を目的とするのではなく、学生対応をする際に「Q&WAY」(質問に対し「道筋」を示すこと)の対応を職員1人1人が意識して対応することに意義がある。またその対応を実践するために、ICTの機能は非常に有効なツールになりうる。

当研修後、職場に戻り、班員1人1人が日々の業務内で意識し、少しずつ「Q&WAY」の対応を実践していくことが各大学の発展につながり、それが「職員だからできる教育」の質の向上につながるのではないだろうか。